

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書

AYA 世代がん患者に対する精神心理的支援プログラムおよび  
高校教育の提供方法の開発と実用化に関する研究

高校教育支援の手引き作成に関する研究

研究分担者 土屋雅子 国立がん研究センターがん対策研究所医療提供・サバイバーシップ政策研究部  
研究員

研究要旨：本研究は、がんと診断された高校生・保護者、医療者、高校教師に向けた高校教育支援の手引き作成を最終目標とし、3年次は、1年次・2年次に実施した患者・保護者、特別支援学校・高等学校教師を対象としたインタビュー調査結果に基づき構成した手引きの①原稿執筆・編集、②「進路決定」の体験談募集・執筆依頼、③手引きの公開を目的とする。上記①について、研究協力者である病弱教育の研究者、特別支援学校の教師にも執筆の分担を依頼し、原稿内容については、研究班内で意見聴取し修正・編集を重ねた。上記②について、関連学会を通して「進路決定」に関する体験談執筆者の募集を行い、応募のあった3名に執筆依頼を行った。上記の結果、10編のコラム・3編の「進路決定」に関する体験談を含む、全7章から構成される「高校生活とがん治療の両立のための教育サポートブック」が完成した。上記③について、本研究班のホームページにおいて公開し、公開シンポジウムにおいて「高校生活とがん治療の両立のための教育サポートブック」の解説を行い広く周知を行った。

#### A. 研究目的

がんの診断後の学業継続・進路選択の問題は、高校在学中の患者が抱える固有の悩みである。高校教育は、小学校・中学校の義務教育と異なり、公立や私立といった学校の種別、特別支援学校への転籍と前籍校への復籍、特別支援学校における高校の部の少なさ等に関連した独自の課題がある。しかし、がんの診断をうけた高校生を対象とする教育支援は緒についたばかりであり、その教育支援の現状と課題、方向性も明らかにされていないまま、いずれの現場も手探りで実践を積み重ねているのが実情である。

そこで、本研究では、がんと診断された高校生・保護者、医療者、高校教師に向けた、高校教育支援の手引き作成を最終目標とし、3年次は、1年次・2年次に患者・保護者、特別支援学校・高等学校教師を対象に実施したインタビュー調査結果に基づき構成した手引きの①原稿執筆・編集、②「進路決定」の体験談募集・執筆依頼、③公開を目的とした。

#### B. 研究方法

上記の目的①原稿執筆・編集について、2年次に作成した目次案に沿って、執筆者を決定した。具体的には、教育制度等の専門性が高い内容や実践的な内容や事例が必要とされるコラムの執筆について、研究協力者である病弱教育の研究者、特別支援学校

の教師から適任者を決定し、文書（執筆依頼文書・執筆要項）を用いて執筆の分担を依頼した。初稿の執筆期間は約6ヶ月とした。執筆内容に関する質疑応答は適宜行った。初稿に対して、重複している内容はないか、病気のある高校生の教育と治療の両立支援の経験のない人にも明瞭であるか、診断直後の高校生・保護者の「学校どうしよう」という気持ちに伝えられる内容となっているか等の視点から、研究者2名が確認し、編集を行った。その後、執筆者には、編集原稿の承諾、あるいは追加修正等の依頼を行った。更に、内容について、研究班内から意見聴取をし、修正・編集を繰り返し行った。

上記②「進路決定」の体験談募集・執筆依頼について、関連学会に体験談執筆募集に関する配信依頼を行い、承諾を得た。応募のあった経験者3名に対し、文書（執筆依頼文書・執筆要項・記入用紙）を用いて依頼をした。記入用紙は、回答が容易となるようQ&A方式とし、7つの質問に対して自由記載で回答を依頼した。初稿の執筆期間は約2ヶ月とした。執筆内容、および原稿公開に関する質疑応答は適宜行った。執筆者には、謝礼としてQUOカード（2000円相当）を進呈した。初稿に対しては、誤字脱字はないか、固有名詞が用いられていないか等の視点から、研究者2名が確認し修正を行った。それら以外の編集は行わないよう留意した。

（倫理面への配慮）

上記目的②「進路決定」の体験談募集・執筆依

頼について、体験談公開時における匿名性を担保し、病名・罹患した年齢・学年の掲載の可否、および公開前の原稿の確認の有無について尋ね、執筆者が承諾した範囲を超えての掲載はしないことを文書で説明した。また、原稿の著作権は本研究班が所有すること、ホームページでの公開や印刷物の配布を予定していることから、他の出版物への引用・転載の可能性はあるが、原稿の二次利用はしないこと等も文書で説明し、執筆を依頼した。

### C. 研究結果

本研究成果である手引きの題目は、「高校生活とがん治療の両立のための教育サポートブック」とされた(図1)。本「教育サポートブック」の対象は、がんと診断された高校生・保護者、医療者、高校教師であり、全体で7章から構成された。具体的には「1章：AYA世代のがん・治療の基礎情報」「2章：がんのある高校生への教育支援の概要」「3章：入院治療中の学習継続に向けた相談・手続きの流れ」「4章：病気の診断時に知っておきたいこと」「5章：入院治療中の学習継続の方法いろいろ」「6章：復学/再通学に向けた準備のポイント」「7章：復学/再通学後の学校生活と進路」である。第1章から第3章、第7章は、読み手の立場に関わらず理解が必要な共通事項と位置づけた(図2)。一方、第4章から第6章は、読み手の立場によって、読み進めていけるよう、イラストを使用して工夫をした。例えば、図3のページは、一番左側のイラスト(高校教師)を対象としたページであることを示している。



図1：表紙



図2：この冊子の目的と使い方



図3 イラスト例



図4 コラム例

全体を通して10編のコラム(図4)、第7章に3編の「進路決定」に関する体験談(図5)を含む。また、1年次、2年次に実施したインタビュー調査での語りを引用することにより、経験者の声を届けるよ

うに努めた。



図5 体験談例



図6 語りの例

本「高校生活とがん治療の両立のための教育サポートブック」は、本研究班のホームページにおいて公開された。また、公開シンポジウムにおいて「教育サポートブック」の解説を行い、広く周知を行った。

### D. 考察

本研究から「高校生活とがん治療の両立のための教育サポートブック」が開発された。病気の診断直後から「学校どうしよう」と不安に思う高校生・保護者の支援につながるよう、病気診断時における相談・手続きの流れ・相談窓口、高校教育継続の様々な方法、復学/再通学への準備、進路決定に関する体験談等を掲載した。本「高校生活とがん治療の両立のための教育サポートブック」の活用により、高校教育継続の必要性、適切な支援者や組織等との連携作りの促進、そして高校生への理解につながることを期待される。

### E. 結論

1年次・2年次の調査研究結果に基づき「高校生活とがん治療の両立のための教育サポートブック」が開発され、公表された。本研究の目的はすべて達成された。

### G. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし